

できる税理士は
知っている

これならうまくいく

クラウド会計

CLOUD
ACCOUNTING

本書の特色

☁ 導入時のポイント、導入前の不安・疑問にQ&Aで回答。

☁ 税理士が知っておきたいクラウド会計の基本事項をやさしく解説。

☁ コスト削減や給与システムとの連携等のメリットを紹介。

できる税理士は
知っている



これならうまくいく
CLOUD ACCOUNTING
クラウド会計

一般社団法人
クラウド経営協会
編著

クラウド会計の導入の必要性を感じながらも
メリット等が分からずに導入を迷っている
税理士必読!

クラウド会計の基礎知識や導入前の不安や
疑問について分かりやすく解説!

第一法規

A5判/168頁

定価 本体1,800円+税

一般社団法人クラウド経営協会
編著



第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560
<http://www.daiichihoki.co.jp>

☎ Tel. 0120-203-694
☎ Fax. 0120-302-640

目次

第2章 疑問編

5

1 クラウド会計ソフトの導入 クラウド会計の導入コストは どれくらい？

ポイント

- ・初期費用なし
- ・年間利用料は

1 初期費用

(1) 一般ユーザー
現在主流とな
freeは月額課金
かりませんので
「まずほとんど
すくなっています
「まずほとんど
には、一般ユーザー
申込みは各クラウド
ド支払いで即時
する必要もなく、ま
のような感覚で利

2 MFクラウド

MFクラウド会
を留意していま

28

第2章 疑問編

6

1 クラウド会計ソフトの導入 クラウド会計によって コスト削減ができるの？

ポイント

- ・記帳業務の人的コストを削減することが可能
- ・仕訳数が多く、単調な取引が多い顧問先ほど大きな効果がある

1 削減できるのは記帳業務の人的コスト

会計事務所がクラウド会計ソフトを導入することで削減できるコストといえは、記帳業務の人的コストです。人的コストは内部コストであり、削減の効果が目に見えづらいため、多くの会計事務所経営者は、業務日報などにより、どの業務にどれだけの時間がかかっているかを分析していることでしょう。

そこで、仮に記帳代行業務の入力担当者の時給が1,500円として、社会保険料の事務所負担額(1,500円×15%=225円)を加味した作業時間当たりの人的コスト1,725円がどれくらい削減できるのかで検討してみたいと思います。

2 仕訳数が多く、単調な取引が多い顧問先ほど効果的

記帳代行業務を引き受けている顧問先にもさまざまな規模があると思います。正直なところ、伝票一枚一枚の処理をしっかりと検討する必要があります。かつ月間の取引数が少ない顧問先は、記帳業務の効率化の面ではクラウド会計ソフトはそこまで大きな効果は出せない可能性があります。

逆に、仕訳数が多く、単調な取引が多い顧問先では工数を大きく削減することができます。例えば年商3,000万円の美容室の場合、主な記帳内容

32

第1章 基本編

- 1 クラウドとは？
 - 2 クラウド会計とは？
 - 3 クラウド会計のメリット・デメリット
 - 4 税務申告とクラウド
- コラム 世界のクラウド会計事情

第2章 疑問編

I クラウド会計ソフトの導入

- 1 導入のメリット・デメリットを教えてください
 - 2 ひと昔前のインターネット会計と何が違うの？
 - 3 従来の会計ソフトとの違いは？
 - 4 クラウド会計ソフトを活用した新しい会計事務所の経営モデルとは？
 - 5 クラウド会計の導入コストはどれくらい？
 - 6 クラウド会計によってコスト削減ができるの？
 - 7 クラウド会計で節税はできるの？
 - 8 セキュリティ面が不安だと大丈夫？
 - 9 クラウド会計でよく聞く「銀行連携」「全自動」とは？
 - 10 クラウド会計のアップデートはどうなっているの？
 - 11 Macでも使えるの？
 - 12 使用できる時間帯に制限はあるの？
 - 13 ユーザーIDはどのように管理・共有されるの？
 - 14 細かな使用権限を設定できるって本当？
 - 15 クラウド会計が苦手とする領域はどのあたり？
 - 16 税務申告にクラウドは使えるの？電子申告は？
 - 17 給与ソフトとの連携はどうなっているの？
 - 18 クラウド型の請求書作成ソフトとの連携はどうなっているの？
 - 19 タブレットレジ等の販売ツールとの連携はどうなっているの？
 - 20 ウェブ系のサービスとクラウド会計ソフトはどれくらい連携するの？
- コラム クラウド会計はどこに向かっていく？

II 顧客への導入

- 1 導入によって、クライアントにどんなメリット・デメリットがあるの？
- 2 クラウド会計を導入する際の具体的な手順とは？
- 3 旧ソフトからクラウド会計へのデータ移行作業って難しい？
- 4 導入に適した企業規模・業種とは？

- 5 導入にハードルが高い企業や業種とは？
 - 6 IPOを目指すクライアントが使っても問題ないの？
 - 7 クラウド会計の操作習得は簡単にできるの？
 - 8 請求業務、経費精算、人事労務業務から業務改善提案をできるの？
 - 9 周辺ツールと連携させる際に注意すべき点は？
 - 10 APIを活用した業務改善提案ができるらしいけれど、APIとは？
- コラム 日系企業の海外進出

III 事務所経営への影響

- 1 クラウド化によって、税理士業務がなくなるの？
 - 2 クラウド会計によって、事務所スタッフの作業は省力化できるの？
 - 3 事務所スタッフの働き方を多様化できるの？
 - 4 クラウド会計の導入で事務所経営にメリットはあるの？
 - 5 今話題のクラウド型の経理代行モデルとは？
 - 6 クラウド会計会社のパートナーシップ制度とは？
 - 7 会計事務所専用のライセンスはどう活用するの？
 - 8 クラウド会計・税務ソフトの利用料金はどれくらいになるの？
 - 9 インストール型のクラウドソフトとの違いは？
 - 10 月次税務監査はどのように進めたいの？
 - 11 人事労務管理がまとめて楽になるって本当？
 - 12 レシートをスキャンできると聞いたけど本当？
 - 13 作業を省力化するツールやテンプレートとは？
 - 14 経営コンサルティング(MAS監査)にも活かせるって本当？
 - 15 会計データのバックアップはどうなるの？帳簿はやっぱり紙？
- コラム クラウド会計ソフトの将来性

第3章 事例編

- 1 勘に頼った店舗運営からの脱却
 - 2 変わるフリーランスの働き方
 - 3 クラウドサービスの活用で事業拡大
 - 4 クラウドサービスで生まれ変わる老舗企業
 - 5 クラウドサービスを活用した会計事務所
- 用語集

詳細・お申し込みはこちら
クレジットカードでもお支払いいただけます

→ 第一法規

検索 🔍